

# 基本構想

第1章 まちづくりの方向性

第2章 施策の大綱



## まちづくりの方向性

## 1 目指す将来像

笑顔あふれる  
しあわせのまち 二本松

将来暮らしてみたいと思う未来の二本松の姿を中学生・高校生アンケートにより募集したところ、459件の回答がありました。キーワードは「しあわせ」と「笑顔」。二本松市の将来を担う子どもたちの思いを込めて「目指す将来像」を決定しました。“笑顔”を育むたくさんの可能性を持った二本松市で、市民の皆さん一人ひとりが、“しあわせ”を見つけることができるよう、二本松市は未来へ進んで参ります。

## 2 計画の全体像

# 目指す将来像 笑顔あふれる



本市では、目指す将来像「笑顔あふれるしあわせのまち 二本松」の実現に向け、4つの重点事項および4つのまちづくりの基本目標と方策の柱を掲げました。

### 健康寿命の延伸

市民総ぐるみで健康づくりを推進し、いつまでも自分らしく、自立した生活を送ることができるまち



### 地域のちから

地域が人を育み、人が地域を創る好循環を生み出すことで、人と人がつながり、地域コミュニティを強め、農業、観光、商工業などさまざまな分野で地域生活を支えあうまち

### 4つの 重点事項

結婚から子育てまでの切れ目のない支援を行い、少子化に歯止めをかけ、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまち

### 人口減少対策



子どもを産み育てやすい環境づくり、そして人づくりを重視し、「こどもの未来」が育まれるまち

### こどもの未来

# しあわせのまち二本松

また、将来像や目標の達成に向けては、「EBPMの推進」、「Society 5.0（第5の新たな社会）への対応」、「SDGs（持続可能な開発目標）の推進」の3つの横断的な視点を持って各施策に取り組み、時代にあった効果的・効率的な施策展開を図ります。

## 4つのまちづくりの基本目標と方策の柱

**1 健康で暮らし続けられるまち**  
【健康／地域福祉／生涯学習・スポーツ】



**2 地域の誇りに満ちた活力あるまち**  
【観光／文化／商工業／農業／地域づくり】



**3 世代をつないで人を育むまち**  
【子育て／教育／若者の定住／多様性】



**4 安全で快適な暮らしのあるまち**  
【都市基盤／防災・防犯／環境】



**方策の柱** みんなで創る持続可能なまち  
【市政運営】



## 3つの施策横断的な視点

統計データ等の客観的なエビデンスを活用し、より実効性の高い施策を実施するため、EBPMの視点に基づき政策や施策の立案を行います。

EBPMの推進

人口減少や少子高齢化の進展に伴って生じるさまざまな課題の解決と私たちの生活の質の向上に向け、Society5.0の実現を念頭においた施策の展開を図ります。

Society5.0（第5の新たな社会）への対応

本計画の基本目標、政策、施策の各体系に関連するSDGsの17の目標を紐付けることで、本市の実情にあわせたSDGsの推進を図り、諸課題の解決や地方創生につなげます。

SDGs（持続可能な開発目標）の推進

### 3 重点事項

本計画では、「健康寿命の延伸」、「地域のちから」、「こどもの未来」、「人口減少対策」を各分野にまたがる重点事項と捉え、複合的な視点を持って重点的に取り組んでいきます。

#### 重点事項1

#### 健康寿命の延伸

日本人の平均寿命は年々伸び続けており、誰もが健康に過ごせる環境づくりが求められています。我が国では、健康上の問題で日常生活が制限されることなく、元気に自立して過ごせる期間を示す「健康寿命」の延伸を目指しており、メタボリックシンドローム予防として、日常生活における運動習慣や食生活改善を提言しています。

本市においても、健康寿命の延伸を目指し、市民一人ひとりが、心身ともに健やかに、いつまでも自分らしく、自立した生活を送ることができるよう、保健事業の充実による生活習慣病予防の推進や気軽に運動ができる環境づくり、栄養と食生活の改善、地域医療体制の確保など、多方面から健康づくりに取り組みます。

また、健康寿命をできるだけ平均寿命に近づけ、いつまでも健やかな生活を送るためには、体の健康だけでなく、こころの健康も不可欠です。そのため、個人で健康づくりに取り組むだけでなく、地域、学校、職場、行政など地域や人のつながりを生かしながら、市民総ぐるみで健康づくりを推進します。



## 重点事項2 地域のちから

急激な人口減少や少子高齢化の進行、若者の都市部への流出等により、地域の担い手が減少する中、子育て、教育をはじめ、健康、福祉、防犯・防災、地域コミュニティなど、多くの分野において、“地域のちから”が求められています。

魅力あふれる地域づくりを実現するためには、市民一人ひとりが自分の住む地域で自ら意欲を持ってまちづくりに取り組み、自分だけでは解決が困難な場合は、周囲や地域が協力し、お互い助け合いながらともに行動し、課題解決に取り組むことが重要です。市民を主役として、地域、企業、行政がお互いに支えあうことで地域のちからを発揮させ、二本松市を維持できるよう、互いの役割、責任を理解し、信頼関係を高め、にぎわいのある市街地の形成と経済活動の活発化、観光都市としての魅力向上、そして、地域を生かした農業振興など、さまざまな分野からまちづくりを推進していきます。

本市の豊かな自然や豊富な地域資源を生かし、地域が一丸となって課題解決に取り組む、地域が人を育み、人が地域を創る好循環を生み出すことで、人がつながり、支えあう二本松市の実現を目指します。



### 重点事項 3 こどもの未来

社会情勢が目まぐるしく変化する中で、子どもたちには、時代のニーズに対応し柔軟に生き抜く力が求められています。

本市では、全ての子どもたちが健やかに生まれ、生きる力を身につけられるよう、幼児教育を含めた教育全体の質を高め、子どもたちが伸び伸びと成長できる環境を整備する等、人づくりに力を注いでいきます。

また、子どもだけでなく、子育て世代が安心して出産・育児ができるよう、家庭と仕事の両立支援をはじめ、子育て世代の精神的・経済的な負担の軽減や、健康づくりへの支援など、子育てにやさしい環境の整備を目指します。

二本松市の将来を担う子どもたちは、市の宝です。二本松市で育った子どもたちが郷土を愛する心を忘れず、日本、そして世界に羽ばたく人材が二本松市から誕生し、二本松市に明るい未来をもたらすよう、しっかりと教育の基盤を構築していきます。

全ての分野において子どもを産み育てやすい環境づくりや人材の育成・確保などを重視し、かけがえのない「こどもの未来」が育まれる二本松市を目指します。



## 重点事項 4

## 人口減少対策

人口の減少は、地域経済や地域コミュニティの機能、行政サービス水準の低下などあらゆる分野に影響を及ぼし、地域全体の活力の衰退につながる懸念されます。

今後、人口減少・少子高齢化が加速化・本格化するとされる中、急激な人口減少を抑制するため、若い世代の就労・結婚・子育て希望の実現と、「東京一極集中」といわれる若者の都市部への流出に歯止めをかけるとともに、高齢者が健康で住み慣れた地域で安心して暮らせるような取り組みを進めていかなければなりません。「しごとづくり」、「ひとの流れをつくる」、「住みやすい、安心して暮らせるまちづくり」を念頭にさまざまな視点から各分野が連携して施策を推進し、人口減少時代のまちづくりに挑みます。

また、二本松・安達・岩代・東和の4地域のいずれに居住しても「住みよい」二本松市の実現を目指すとともに、シティプロモーション<sup>※8</sup>の推進により、積極的な本市の魅力発信を行うことで、交流人口や関係人口<sup>※9</sup>の拡大につなげ、二本松市への愛着と定住意向を醸成し、将来にわたって持続可能な二本松市を目指します。



※8 地域を持続的に発展させるために地域の魅力を内外に効果的に発信し、それにより人材・資金・情報などの資源を活用できるようにしていくこと。

※9 移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。

## 4 基本目標

### 基本目標

# 1

## 健康で暮らし続けられるまち

関連する SDGs の目標 ▶▶▶



高齢化の進行に伴い、健康・福祉分野は、ますますその重要性を増しています。市民意識調査では、「高齢者福祉」や「障がい者福祉」、「支えあう福祉」などが重要度の高い施策として挙げられており、日常生活の満足度を判断する際の要素として「健康状態」が重視されるなど、健康への市民のニーズは高まっています。

また、「健康」は子どもから高齢者まで世代を問わず願われるものであり、市としても最も重要な施策のひとつです。全ての市民が生涯を通じて健やかで幸せな生活を送るためには、心身の健康づくりや地域での支えあい、生きがいづくりが重要となっています。

そのため、本市では、市民一人ひとりがライフステージにあわせた正しい知識と習慣を身につけ健康的に暮らせるよう、生活習慣病予防や介護予防などの保健事業の充実を図り、健康寿命の延伸を目指します。

また、健康づくりのみならず、高齢者や障がい者をはじめ、支援を必要とする全ての市民が適切な福祉サービスを受けられる体制を整備し、市民、地域、行政が互いに連携し、地域ぐるみで健康づくりや福祉の充実に取り組みます。

さらには、生涯学習や文化・芸術活動の充実を図るとともに、健康寿命の延伸への効果も期待されるスポーツの活性化を図ることで、地域の中で人とつながり、生きがいを持った生活が送れるよう努めます。

こころと体の健康や生活の豊かさは、日常生活における最も基礎的な要素です。

健康寿命の延伸や健康の増進、生きがいづくりの充実を図ることで、こころと体の健康を維持し、地域全体で支えあう、誰もが「健康で暮らし続けられるまち」を目指します。

## 基本目標

## 2

地域の誇りに満ちた  
活力あるまち

関連するSDGsの目標 ▶▶▶



本市は、安達太良山や阿武隈川に育まれた豊かな自然、国の史跡に指定された二本松城跡（霞ヶ城公園）や古戦場などの歴史・文化資源、伝統を今に伝える祭りや温泉など、豊富で多様な地域資源に恵まれています。

これらの資源を一層磨き上げ、市民一人ひとりが自分の住む地域に誇りを持ち、魅力や価値を市内外に広く伝えることで、本市の特性を生かした産業の振興や地域づくり、活力に満ちたまちづくりにつなげていくことが重要です。

そのため、市内各エリアに点在する観光資源の連携や、インバウンド等の受け入れ体制の強化とともに、広く市内外の誘客を積極的に進め、DMOを中心とした観光都市としての魅力向上に取り組みます。また、これらの誘客の推進により中心市街地への人の流れを生み出し、集客施設や商店街の活性化につなげることで、活力とにぎわいのあるまちづくりを進めます。

産業については、酒、家具等の地場産業の振興を図るとともに、再生可能エネルギーの地産地消など新産業の創出、産業団地への企業立地の促進により、市内経済の活性化と多様な就業の場の確保を図ります。また、農業の持続的発展に向け、ブランド化や6次産業化など商品の付加価値を高めるとともに、販路拡大や農業担い手の育成、安全安心な農産物の生産などに取り組み、活気あふれる農業の振興を推進します。

これらの豊富な地域資源や長い歴史の中で培われた伝統的な文化や風土を磨き上げ、地域の魅力を発信することで、交流人口や関係人口を増やすとともに、それぞれの地域の特色を生かした活動や支援を充実させ、人がつながり支えあう地域づくりを推進します。

観光や産業の振興と雇用の確保はにぎわいのある地域づくりの要となる要素です。

観光、農業、そして商工業の連携を軸に、雇用の創出と地域経済の振興を図ることで「地域の誇りに満ちた活力あるまち」を目指します。

基本目標  
3

# 世代をつないで人を育むまち

関連する SDGs の目標 ▶▶▶▶



少子高齢化の波は、労働人口の減少など経済活動にも大きな影響を与えています。これまでと同規模の人口を維持し続けることは困難が予想され、今後は一人ひとりの力により、不足するマンパワーを補わなければなりません。そのため、今、高い技術や柔軟に生き抜く力を持った人材の育成が求められています。

子どもたちが二本松市の将来を担う人材となるよう、学力や体力の向上を目指すのはもちろんのこと、成長した子どもたちが就労、出産、子育てなどそれぞれのライフステージにおいて二本松市で暮らし続けることができるまちづくりが重要です。

次世代の育成に向けて、本市では子どもたちの生きる力を育み、一人ひとりに向き合った、きめ細かく質の高い学校教育が受けられるよう、次代のニーズに応じた教育環境の整備を推進していきます。

子育て環境においても、子育て支援の充実や働き方改革の推進、就業環境の整備など、子育て世代が働きながら安心して子どもを産み育てられる支援や環境の整備が求められています。全ての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、安心して育まれるよう、支援を要する子どもたちへのケアをはじめ、家庭、地域と連携しながら、二本松市全体で子育てを支援する仕組みをつくります。

また、二本松市で生まれた子どもたちが生涯にわたって二本松市を思い、更には市内に定住し続けてもらえるよう、生活基盤の確保を図る一方、若者の出会いと交流の促進や多様な就業の場の確保、新規創業などのチャレンジを支援していきます。

「人づくり」は持続可能な二本松市を築いていくための未来への投資です。子育て支援や教育を充実させ、若者が生涯にわたり居住できる環境を整備することで、妊娠から出産、子育て・教育、就労、結婚、そしてまた次の代へと「世代をつないで人を育むまち」を目指します。

## 基本目標

## 4

安全で快適な  
暮らしのあるまち

関連するSDGsの目標 ▶▶▶



本市は、郡山市と福島市の中間に位置する、豊かな自然に囲まれた安達地方の中心都市です。しかし、市民意識調査では、「買い物など日常生活の不便さ」、「交通の便の悪さ」などが挙げられており、高齢化が急速に進む中、都市・生活拠点の機能強化と利便性の向上に対するニーズがこれまで以上に高まっています。

このことから、防犯・防災対策や、居住環境の整備なども含め、誰もが安全に快適に暮らすことのできる環境の整備が重要となっています。

今後のまちづくりにおいては、生活支援機能を集約したコンパクトな市街地形成を図りつつ居住環境を整備するとともに、利用者のニーズを捉えた公共交通ネットワークを構築し、中山間地域も含めた市内全ての地域での生活の利便性向上に努めます。

また、市民の生命、財産を自然災害から守るため、これまで本市で発生したあらゆる災害の教訓を生かした対策を行うとともに、自主防災組織の育成等による防災・減災体制の強化に取り組みます。さらに、地域医療体制の充実や交通安全対策、防犯対策なども踏まえた安全で快適な暮らしのできる環境を整備します。

環境保全については、持続可能な社会を実現するため、地球温暖化防止や再生可能エネルギーの利用拡大などに取り組み、市内の豊かな自然の保全を図り、低炭素で環境にやさしい社会の構築に取り組んでいきます。

自然豊かで安全・安心な生活空間の創出には、都市基盤の整備のみならず、市民一人ひとりが環境や安全に対して意識を持つことも重要です。この豊かな自然と安全・安心で快適な暮らしを守り続けられるよう、自然環境保全や防災に対する意識の醸成、人々が暮らしやすい都市基盤の形成や仕組みづくりを行うことで、「安全で快適な暮らしのあるまち」を目指します。

## 方策の柱

# みんなで創る持続可能なまち

関連する SDGs の目標 ▶▶▶



少子高齢化の進行は、全国的に財政規模の肥大化と税収の減少を引き起こしており、本市においても、次の世代に過重な負担を先送りしないために、長期的な視点に立った健全な財政運営が求められています。

そのため、社会経済情勢の大きな変化や一層厳しさを増すであろう財政状況を踏まえ、職員の適正配置や行政サービスの効率化を図るとともに、観光や公共交通、地域医療などさまざまな分野において広域連携を図ることで、効果的に政策を展開していくことのできる仕組みづくりに努めます。

また、環境や経済活動、福祉などの水準が長期的に維持され、将来の世代のニーズを満たすことのできる「持続可能な二本松市」の実現に向けて、地域づくりや産業振興、福祉など幅広い分野において、市民との連携・協働によるまちづくりを推進します。

なお、市政情報の積極的な公開や広聴広報機能のさらなる拡充を図り、地域資源の性質やターゲットに応じた、分かりやすく、きめ細かなシティプロモーションを推進することにより、積極的な本市の魅力発信を行うとともに、市民の「にほんまつ」への愛着や誇りを醸成し、自らまちづくりに関わる機運の向上につなげていきます。

まちづくりは、市民と行政がともに考え、ともに選択し、ともに行動することが重要です。

市組織の効果的な体制の整備と人材育成等を図り、限りある行政の経営資源をより一層効率的に活用するとともに、市民の地域での役割やその活躍が人生をより豊かで充実したものとし、市民との協働による計画的なまちづくりを進めることで、「みんなで創る持続可能なまち」を目指します。

序  
論

基本  
構想

基本  
目標  
1

基本  
目標  
2

基本  
目標  
3

基本  
目標  
4

方  
策  
の  
柱

資  
料  
編

## 5 目標人口

過去のトレンドに基づく推計人口※<sup>10</sup>では令和12年(2030年)に約4万8千7百人まで人口が減少することが予測されていますが、子育て環境の整備による出生数の向上や定住人口の増加を着実に進め、にぎわいの創出と人口の流出抑制に努めることにより、目標人口を約5万人程度に維持することを目指します。

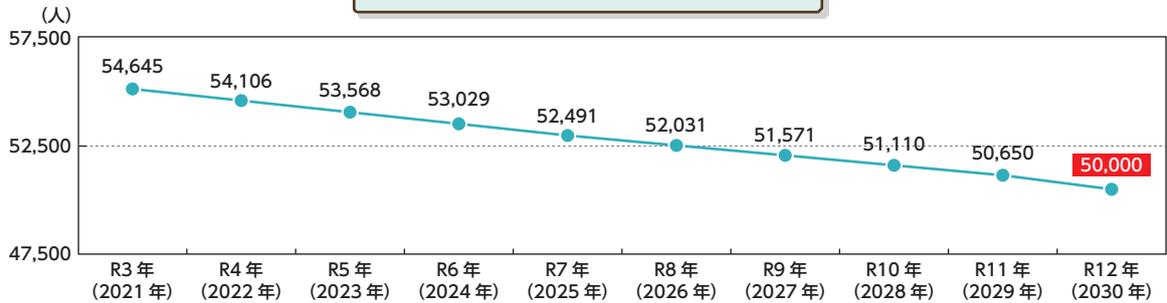
### 本計画における目標人口

令和12年(2030年)の目標人口：50,000人程度を維持

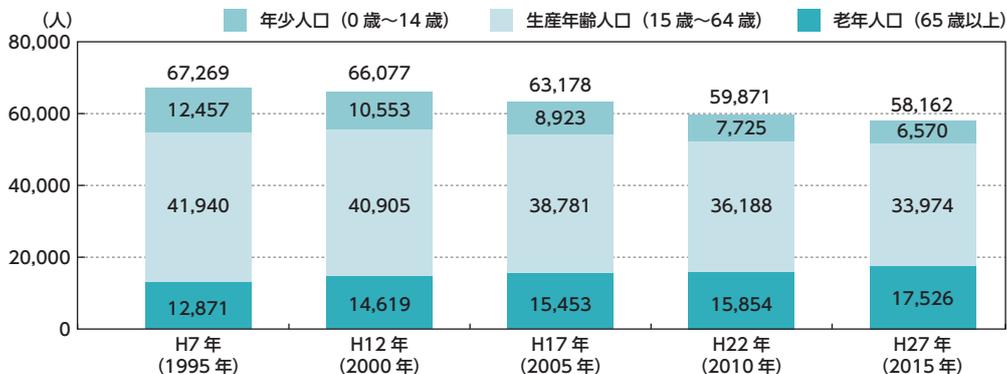
	現 状 人 口		目 標 人 口	
	平成27年(2015年)	令和7年(2025年)	令和7年(2025年)	令和12年(2030年)
総人口	58,162人	52,491人	52,491人	50,000人
年少人口 (0歳～14歳)	6,570人 (11.3%)	5,549人 (10.6%)	5,549人 (10.6%)	5,584人 (11.2%)
生産年齢人口 (15歳～64歳)	33,974人 (58.4%)	27,325人 (52.1%)	27,325人 (52.1%)	25,274人 (50.5%)
老年人口 (65歳以上)	17,526人 (30.1%)	19,617人 (37.4%)	19,617人 (37.4%)	19,142人 (38.3%)

※年齢不詳があるため、年齢別人口(構成比)の合計は市内全体の人口と合致しない(100%にならない)場合がある

### 計画期間内における目標人口の推移



### これまでの人口動向と今後の予測(目標)



※年齢不詳があるため、年齢別人口の合計は市内全体の人口と合致しない場合がある 出典：国勢調査人口(各年10月1日現在)

※10 平成27年国勢調査人口を基にコーホート要因法により国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の定めた仮定値を用いて推計。

長期的な人口予測

目標人口設定における考え方と推計条件

政策誘導等

各種政策の実施により、人口減少を抑制

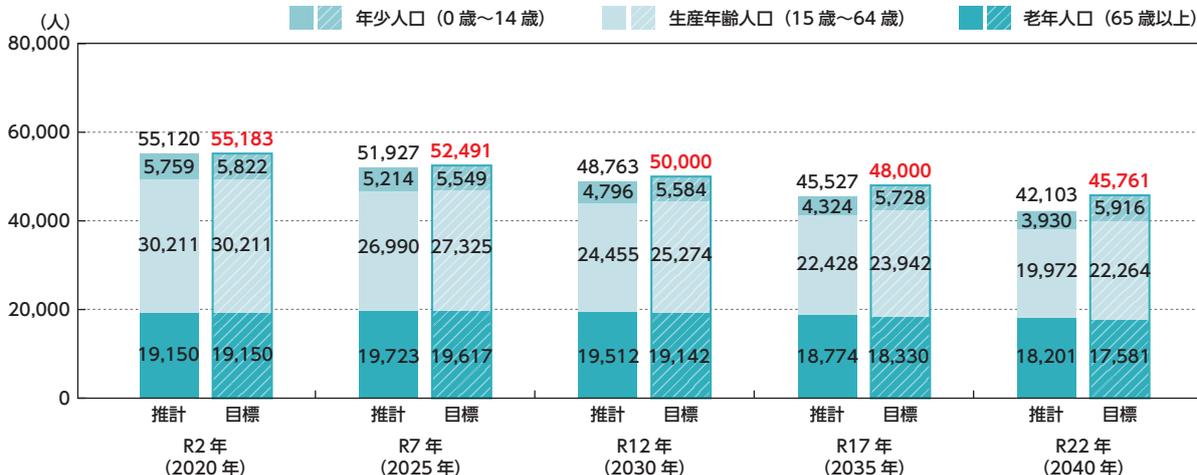
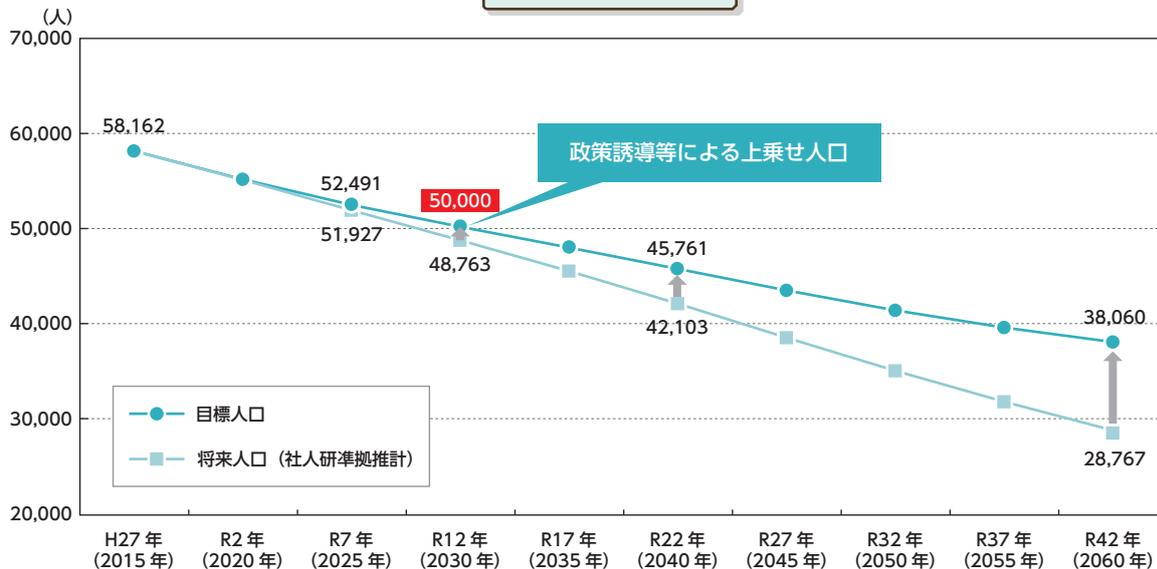
【自然動態の改善】 子育て環境の整備による出生数の向上

【社会動態の改善】 定住人口の増加、にぎわいの創出と人口の流出抑制

	基準人口	出生率	純移動率
目標人口	国勢調査人口 (H27/10/1時点)	二本松市の目標出生率※ 令和22年(2040年) までに2.11人	令和12年(2030年) までに移動均衡 (社会増減ゼロ)

※福島県の希望出生率（県民の希望がかなった場合の出生率）2.11人を参考に独自に設定

長期的な人口予測



序論

基本構想

基本目標1

基本目標2

基本目標3

基本目標4

方策の柱

資料編

## 6 将来土地利用

土地は限りある資源であり、市民生活や各種活動の基盤となるものです。土地利用にあたっては、地域特性を生かしながら自然環境と都市環境の調和のとれた総合的・計画的な利用を推進します。

### (1) ゾーニング

#### 市街地・住宅ゾーン

二本松駅周辺・杉田駅周辺から安達駅周辺に至る一帯を「市街地・住宅ゾーン」とします。中心市街地においては、にぎわいの創出に努めるとともに都市機能がコンパクトに集約された高齢者等が歩いて暮らせる居住機能の向上を図ります。また、市街地の特性にあわせ都市機能の集積や秩序ある商業市街地の形成を図るとともに住環境整備による計画的で秩序ある住宅市街地の形成を図ります。

#### 農村地域定住ゾーン

市内各所に広がる農業・農村地区を「農村地域定住ゾーン」と位置付け、農業振興地域においては、優良農地の保全と有効利用に努めます。

一方、過疎化等により日常生活に必要なサービスを受けることが困難となり、コミュニティ機能が低下している集落においては、複数の集落による生活拠点づくりに取り組みます。

#### 工業ゾーン

地域未来投資促進法における「工場立地重点促進区域」に指定されている市域南部の阿武隈川周辺一帯や既成工業地区を「工業ゾーン」と位置付け、工業施設の集積を進めるとともに周辺環境と調和を図りながら工業・流通団地用地としての基盤整備の充実を図ります。

#### 観光レクリエーションゾーン

安達太良山麓地区一帯や阿武隈高地地区一帯を「観光レクリエーションゾーン」と位置付け、都市圏からの観光客誘致に加え市民の憩いの場として活用を図るとともに、畜産の振興や森林の計画的な保全を図ります。

## (2) 主要拠点

### 中心拠点と地域拠点の形成

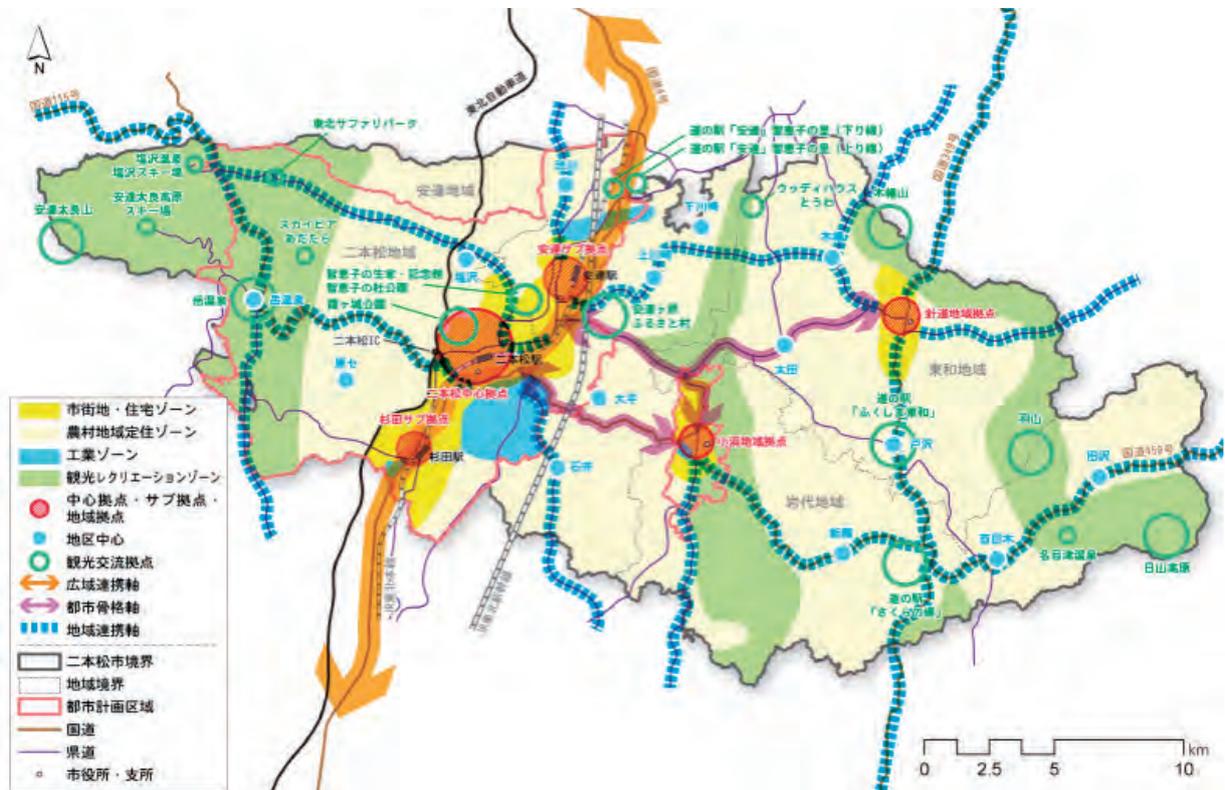
二本松駅・二本松市役所周辺を「中心拠点」と位置付け、その求心力をさらに高めていくため、霞ヶ城公園周辺から中心市街地に至る魅力ある空間づくりを推進し、商業・サービス機能、文化機能などの集積・誘導を促進します。さらに隣接する杉田駅の周辺および安達駅の周辺を、中心拠点を補完する「サブ拠点」として位置付け整備を進めます。二本松駅から安達駅の周辺にかけては、連続する市街地であることから、「中心エリア」として拠点間の連携を図っていきます。

また、小浜地区および針道地区については、支所を中心に生活の利便性を確保し、暮らしの安心を守る「地域拠点」として位置付け、地域の定住人口の安定に努めます。

### 観光交流拠点の形成

温泉、山、高原、公園、道の駅などについて、それぞれの資源を十分に生かした取り組みを進めることにより、「観光交流拠点」と位置付けます。

また、テーマを設定して、これまであまり活用されてこなかった資源を掘り起こしたり、分散している資源のネットワーク化を進め、交流を促進します。



# 施策の大綱

## 1 施策体系

### (1) 施策体系図



### 目標3

#### 人を育むまち

##### 環境づくり



母子の健康づくりの支援

負担軽減

育てできる環境の整備

##### 学校・家庭・地域と育む



充実

地域が連携した教育の推進

の整備充実



盤の確保

の確保と若者のチャレンジ支援

の促進



等の実現

関わる事項

推進

### 基本目標4

#### 安全で快適な暮らしのあるまち

##### 1 居住環境の整った暮らしやすいまちづくり



- 1 良好な市街地の形成
- 2 効率的・効果的な交通体系の整備
- 3 多世代が集う憩いの場づくり
- 4 水の安定供給

##### 2 安全なまちづくりの推進



- 1 切れ目ない防災対策
- 2 暮らしの安全対策の充実
- 3 医療体制の充実
- 4 放射線対策の推進

##### 3 自然と共生し環境にやさしいまち



- 1 生活排水処理による水環境の保全
- 2 自然と森林環境の保全
- 3 資源の循環利用と環境負荷の低減

### 方策の柱

#### みんなで創る持続可能なまち

##### 1 市政改革



- 1 市政改革の推進
- 2 部課横断型組織体系での対応の強化
- 3 民間との連携、民間への移行
- 4 市民協働による市政運営

##### 2 全ての市民に情報が行き届くまち



- 1 広報・広聴の充実
- 2 シティプロモーションの推進

##### 3 財政基盤の強化



- 1 効率的・効果的な行政運営
- 2 健全な財政運営の推進

##### 4 広域連携推進



- 1 市域を超えた広域連携の推進

## (2) 本計画の施策と関連する SDGs の目標

		関連する					
		1 貧困をなくそう  貧困	2 飢餓をゼロに  飢餓	3 すべての人に健康と福祉を  保健	4 質の高い教育をみんなに  教育	5 ジェンダー平等を実現しよう  ジェンダー	6 安全な水とトイレを世界中に  水・衛生
基本目標 1	元気で暮らす健康づくり		●	●			
	地域みんなで支えあう地域福祉の充実	●					
	生涯学習・生涯スポーツの推進			●	●		
基本目標 2	自然・歴史・文化の価値を磨き続けるまち						
	活気あふれる商工業と就業機会の拡大				●		
	自然の豊かさを実感できる農業の実現		●				
	人がつながり支えあう地域づくりの推進						
基本目標 3	子育てにやさしい環境づくり	●		●	●	●	
	学ぶ力・生きる力を学校・家庭・地域と育む	●	●		●		
	若者の定住促進				●		
	多様性と包摂性 <sup>ほうせつせい</sup>				●	●	
基本目標 4	居住環境の整った暮らしやすいまちづくり						●
	安全なまちづくりの推進	●		●			
	自然と共生し環境にやさしいまち			●			●
方策の柱	市政改革						
	全ての市民に情報が行き届くまち						
	財政基盤の強化						
	広域連携推進						

SDGsの目標										
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	8 働きがいも 経済成長も	9 産業と技術革新の 基盤をつくらう	10 人や国の不平等 をなくそう	11 住み続けられる まちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な対策を	14 海の豊かさを 守ろう	15 陸の豊かさも 守ろう	16 平和と公正を すべての人に	17 パートナーシップで 目標を達成しよう
エネルギー	経済成長 と雇用	インフラ 産業化	不平等	持続可能な 都市	持続可能な 消費と生産	気候変動	海洋資源	陸上資源	平和	実施手段
	●		●	●						
				●						
	●			●						
●	●	●		●						
	●	●						●		
	●			●					●	●
									●	
				●						
	●			●						●
	●		●						●	●
		●		●						
			●	●		●				
●				●	●		●	●		
									●	●
	●	●			●				●	●
									●	●
									●	●

序論

基本構想

基本目標1

基本目標2

基本目標3

基本目標4

方策の柱

資料編

## 2 施策の大綱

### 基本目標1

### 健康で暮らし続けられるまち

#### 1

#### 元気で暮らす健康づくり



子どもから高齢者まで全ての市民が、歯の健康維持や生活習慣病予防、介護予防に向けて、それぞれのライフステージや健康状態にあわせた健康づくりを実践していくことができるよう、こころと体の健康づくりに取り組みます。

##### 目指す姿

- ▶一人ひとりが健康を意識した生活習慣を身につけることにより、健康寿命が延び、心身ともに元気で活発な暮らしを送っています

#### 2

#### 地域みんなで支えあう 地域福祉の充実



高齢者や障がい者をはじめとした、支援を必要とする全ての人の生活を支える福祉サービスを充実するとともに、地域の実情にあわせて適切な介護サービスを確保し、高齢者や障がい者、子どもを支える地域包括ケアへの取り組みなど、地域ぐるみで福祉を推進します。

また、医療、介護、年金等の社会保障制度の安定的運営に努めます。

##### 目指す姿

- ▶福祉サービスが充実し、市民が互いに助け合いの精神で福祉活動に参加することで、高齢者や障がい者をはじめ、支援を必要とする全ての人にやさしく安心して暮らせる環境が整備されています

### 3 生涯学習・生涯スポーツの推進



それぞれのライフステージを通して誰もがいつでも学習することができ、豊かな知恵を育むことができるよう学習の機会と場所を提供するとともに、市民が利用しやすいスポーツ施設の運営や、誰もがスポーツに参加できる機会の充実など健康づくりと連携したスポーツの振興を図ります。

また、市民が優れた文化・芸術に触れる機会を増やし、自主的な活動への支援を行うなど市民の文化・芸術活動の活性化を図ります。

#### 目指す姿

- ▶老若男女、幅広い世代で多くの市民がスポーツに親しむとともに、生涯学習を实践する各種団体やサークル等が活発に活動することで、市民が生涯を通して学び、生きがいを見つける機会が確保されています
- ▶生涯学習と地域社会活動が連携することにより、地域の活力が維持されています

# 基本目標 2 地域の誇りに満ちた活力あるまち

1

## 自然・歴史・文化の価値を磨き続けるまち



豊かな観光資源を生かした受け入れ体制の充実などにより、観光客を市内に誘客し、還流させるおもてなし観光を推進します。

また、各エリアの観光資源の連携やインバウンド等の受け入れ体制の強化など「にほんまつDMO」を中心に観光都市としての魅力向上に取り組むとともに、新たな観光資源の掘り起こしと活用、整備により滞在交流型観光※11を推進します。

二本松市の歴史と文化を受け継ぎ、さらに次代へつないでいくため、発掘調査や後継者の育成支援を行い、いにしえから未来へ伝えていきます。

### 目指す姿

- ▶ 二本松を訪れる観光客が二本松のさまざまな魅力を楽しみ、おもてなしの心に触れることにより、市民との交流を広げ、地域の活性化につながっています
- ▶ 市民が文化に親しみ、触れることで、地域に愛着が生まれるとともに、心豊かな生活を送っています

2

## 活気あふれる商工業と就業機会の拡大



商業機能、公共施設など都市機能のコンパクト化を図り中心市街地の拠点性を高めるとともに、イベント等の充実などにぎわいの創出に努めます。

また、市内企業の経営力強化や操業しやすい環境整備を行うとともに、地場産業のブランド化や担い手の育成など、地域産業の振興を図ります。

さらには、太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギーの地産地消による新産業の創出やそれに伴う市内の経済の活性化を図るとともに、企業立地の促進、また、性別や年齢などに関係なくチャレンジ精神を持つ市民の新規創業を支援し、本市における就業機会の拡大と働きがいのある就業の場づくりを応援します。

### 目指す姿

- ▶ 中心市街地では、経済活動が活発となり、まちの活性化と人の交流を促進する商店街振興が図られるなど、新たな魅力とにぎわいが形成されています
- ▶ 匠のいる二本松として地場産業が注目される一方、空き店舗等を活用した新規創業への取り組みなど、商工業が盛んとなっています

※ 11 複数の観光地を駆け足で巡る周遊型観光とは異なり、特定の1拠点に滞在し、その周辺地域で体験型を含むレジャーを楽しむ観光形態のこと。

### 3 自然の豊かさを実感できる 農業の実現



二本松市産の農産物について付加価値の高い商品開発に努め、ブランド力の向上を図るとともに、他産業との連携により生産から加工、流通、販売まで取り組む6次産業化を推進します。また、新たな技術を活用したスマート農業を推進し生産性の向上を図る一方、消費者に魅力と満足度の高い商品を提供するとともに、安全安心な農産物の生産を図ります。

農業者の高齢化や後継者不足等による離農、それに伴う耕作放棄地が増加している現状を踏まえ、持続可能な農業の実現を図るため、認定農業者や集落営農組織、新規就農者など多様な担い手の育成を行うとともに、お手伝い制度や人材バンクなど新たな農業経営の在り方を模索します。

#### 目指す姿

- ▶ ブランド化が進み収益性の高い農業が確立され、認定農業者や先進的な農業経営体など担い手の育成・確保が図られています
- ▶ また、農業用施設の整備が図られることにより、安全で安心な品質の高い農産物が効率的に生産できており、力強い農業経営が行われています

### 4 人がつながり支えあう 地域づくりの推進



地域の特性を生かしたさまざまな交流を拡大し、移住者や二地域居住、関係人口の拡大につなげていきます。また、地域住民が連携し、地域の課題解決や産業、文化など幅広い分野での協働の取り組みを推進します。

地域コミュニティ機能の維持を図り、地域住民一人ひとりが地域での生活を互いに助け合うことで、誰もが幅広く活躍できる環境づくりに努めます。

#### 目指す姿

- ▶ 市民をはじめ多様な担い手が参加・連携したまちづくりが展開され、市と市民との協働によるまちづくりが推進されています

## 基本目標 3

# 世代をつないで人を育むまち

1

### 子育てにやさしい環境づくり



妊娠から出産まで保健・医療などの切れ目のない支援を充実し、親と子どもの健康づくりをサポートします。

また、子育てに対する親の精神的・経済的な不安や負担を和らげ、支援を必要とする子どもたちを含めた全ての子どもたちが健やかに育つよう、経済支援や多様な保育サービスの提供、専門職や関係機関が連携したサポート体制の充実など、地域全体で子育てを応援する、子育てにやさしい環境づくりを進めます。

#### 目指す姿

- ▶ 安心して子どもを産み育てる環境が整い、多様な子育て支援や保育サービス、幼児教育が推進され、親の出産や育児に対する不安が軽減されることによって、多くの親子の笑顔があふれています

2

### 学ぶ力・生きる力を学校・家庭・地域と育む



次代を担う子どもたちの確かな学力、健やかな体の育成に努め、学校と家庭、地域が連携して社会で「生きる力」や、人や自然に対する思いやり、郷土を誇りに思う心を育む教育を推進します。

また、各学校独自の特色を生かした活動を促進するとともに、時代に対応した教育環境の整備充実を図ります。

#### 目指す姿

- ▶ 学校では、子どもたちが豊かな学びの体験を通して、心身ともに健やかでたくましく、郷土を愛する市民として成長できるように教育が推進されています
- ▶ 学校と家庭、地域が連携・協力し、思いやりと責任をもって子どもたちを見守っています

### 3 若者の定住促進



市内外の若者に対し、市内での就業につながる雇用の場を提供・創出するとともに、定住化を促進するためのさまざまな支援に努めます。

また、若者の力を地域の中で生かすとともに、男女の出会いを創出し、結婚を地域全体で支援します。

#### 目指す姿

- ▶若者が二本松に愛着を持ち、地域の中で活躍し、夢を持ち安心して家庭を築くことができる環境が整備されています
- ▶多様な働き方が選択でき、安定した雇用、就業機会が確保されています

### 4 多様性と包摂性<sup>ほうせつせい</sup> ※12



誰もが、不当な差別を受けることなく安心して生活できるよう、人権や男女共同に関する意識の醸成・普及促進を行い、性別・障がいの有無・年齢・国籍などによらず、全ての人が生きがいをもって生活することのできる環境の整備に努めます。

また、海外派遣や国際友好都市との交流等を促進し、国際的感覚の醸成や国際化社会の中で活躍できる人材の育成を推進します。

#### 目指す姿

- ▶誰もが人権を尊重し合い、平等にいきいきと生活しています
- ▶市民や地域がグローバル感覚に優れ、国内外に開かれたまちになっています

※12 社会的に弱い立場にあつたり生活困難を抱えた人々も含め、全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、地域社会の一員として包み支えあう考え方のこと。

## 基本目標 4

# 安全で快適な暮らしのあるまち

1

### 居住環境の整った 暮らしやすいまちづくり



市街地や地域拠点において良好な居住環境の整備を図るとともに、多世代が集う憩いの場づくりを推進します。

生活条件の不利な中山間地域においては生活に不可欠な機能をできるだけ地域で確保・拡充させ、効率的・効果的な道路ネットワークと公共交通の整備により市街地との連携を強化します。また、住民生活と福祉の向上、地域の発展等に向けて、安心して安全な生活用水の安定確保を図ります。

#### 目指す姿

- ▶市街地や地域拠点では、人が行き交いにぎわいのある空間が創出されているとともに、地域の特性が生かされた良好な居住環境が整備されています
- ▶道路交通の利便性が向上し、スムーズに市内を移動できる環境となっています
- ▶健全な水道事業経営のもと、安全でおいしい水が多くの方の市民に対し、安定的に供給されています

2

### 安全なまちづくりの推進



災害や危機に的確に対応できるよう市民一人ひとりの防災意識を高め、災害に備えるとともに、自主防災組織を中心とした地域防災力の強化、避難所の機能強化など、市全体での防災体制の整備・充実を図ります。また、近年増加する台風や豪雨被害の対策として治山・治水事業を推進するとともに、安達太良山の噴火に備えた対策などを進めます。

災害のみならず、事故や犯罪から市民の安全な暮らしを守るため、増加する空き家解消に向けた対策や地域ぐるみの防犯対策、高齢ドライバーによる事故などを踏まえた交通安全対策、相談機能の充実による消費者保護対策などに取り組みます。

医療体制については、市内の医療機関や安達医師会、安達歯科医師会等と連携しながら地域医療体制の充実を図ります。

放射線に対する効果的な事業の推進を図るとともに、放射線からの影響を最も受けやすい子どもや妊婦等の健康管理を継続して実施します。

目指す姿

- ▶地域の医療体制が充実し、身近な場所でいつでも安心して質の高い医療を受けることができます
- ▶自主防災組織が各行政区に設立され、防災教育や防災訓練を実施することにより、非常時に協力し合える体制が整備され、自然災害などの発生時に被害を最小限に抑えることができます
- ▶消防団、交通安全協会、防犯協会等の活発な活動により、火事や災害、交通事故、犯罪等が減少し、市民が安全に生活しています

3

自然と共生し  
環境にやさしいまち



豊かな緑に包まれた自然景観や歴史を生かした二本松らしい景観は、二本松の魅力のひとつです。市民の心に残る自然や景観を保全するとともに、未来への継承に努めます。

また、持続可能な社会を実現するため、地球温暖化防止や再生可能エネルギーの利用拡大、ごみの排出抑制、生活排水処理による水環境の保全など環境負荷の軽減に取り組みます。

目指す姿

- ▶豊かな自然環境が保全され、地球温暖化対策への理解が進み、ごみの減量化・再資源化が進むなど、きれいで快適な環境が確保されています
- ▶地域の実態にあった生活排水処理対策が進められています

## 方策の柱

# みんなで創る持続可能なまち

### 1

## 市政改革



人口減少・少子高齢化に適応した、効率的で持続可能な二本松市の運営に向けて、組織が相互に連携し横断的に機能する体制づくりや、職員の資質向上や適正配置、業務の効率化、行政評価（検証）による施策の選択と集中など、経営的視点に立った行政運営に取り組みます。

また、行政サービスの効率化と経済性を高めることができるよう、行政、企業、NPO、市民団体などのさまざまな活動主体の力を結集して公共サービスの質的向上と効率化を進めます。

市政への市民参加を促進するため、市政情報の公開・共有を推進するとともに、市民が政策形成に広く参加できるよう各種委員会等の委員の公募を推進し、市民との協働のまちづくりを進めます。

### 目指す姿

- ▶ 組織の垣根を超えた部課横断的な施策の推進や成果重視の行政経営の仕組みが整い、質の高い行政サービスが提供されています
- ▶ 市民の声が施策に反映され満足度の高い行政サービスが提供されるとともに、市民や民間との連携による事業の推進など、協働のまちづくりが推進されています

### 2

## 全ての市民に 情報が行き届くまち



市民をはじめとしたさまざまな活動主体と行政との対話や市民の提言機会の充実、行政情報の公開による共有を図ります。

また、市民のみならず、二本松市の魅力を地域の内外に広く発信し、二本松市の認知度やイメージアップを図るとともに、市民のまちへの愛着や誇り（シビックプライド）を醸成し、市民が自らまちづくりに関わる機運を高めます。

### 目指す姿

- ▶ 市政に関する情報が広く分かりやすく広報され、幅広い年齢層から多くの意見を聴くことができます
- ▶ 多くの人々に愛される「二本松市」に、市民が愛着と誇りを持ち積極的にまちづくりに参加しています

### 3 財政基盤の強化



人口の動向や社会情勢などを踏まえた長期的な視点に立ち、自主財源の安定的な確保に取り組むことで、持続可能で健全な財政運営を図ります。限られた財源の中で、最大の効果を発揮できるように、今後も更なる行政運営の効率化に努めます。

#### 目指す姿

- ▶限られた経営資源（ヒト・モノ・カネ）を効率的かつ効果的に活用し、健全な財政運営が維持されています

### 4 広域連携推進



観光や公共交通、地域医療など、市域の垣根を超えた広域的な連携を推進し、事務事業の共同化による行政運営の効率化と生活関連機能サービスの維持・向上を図ります。

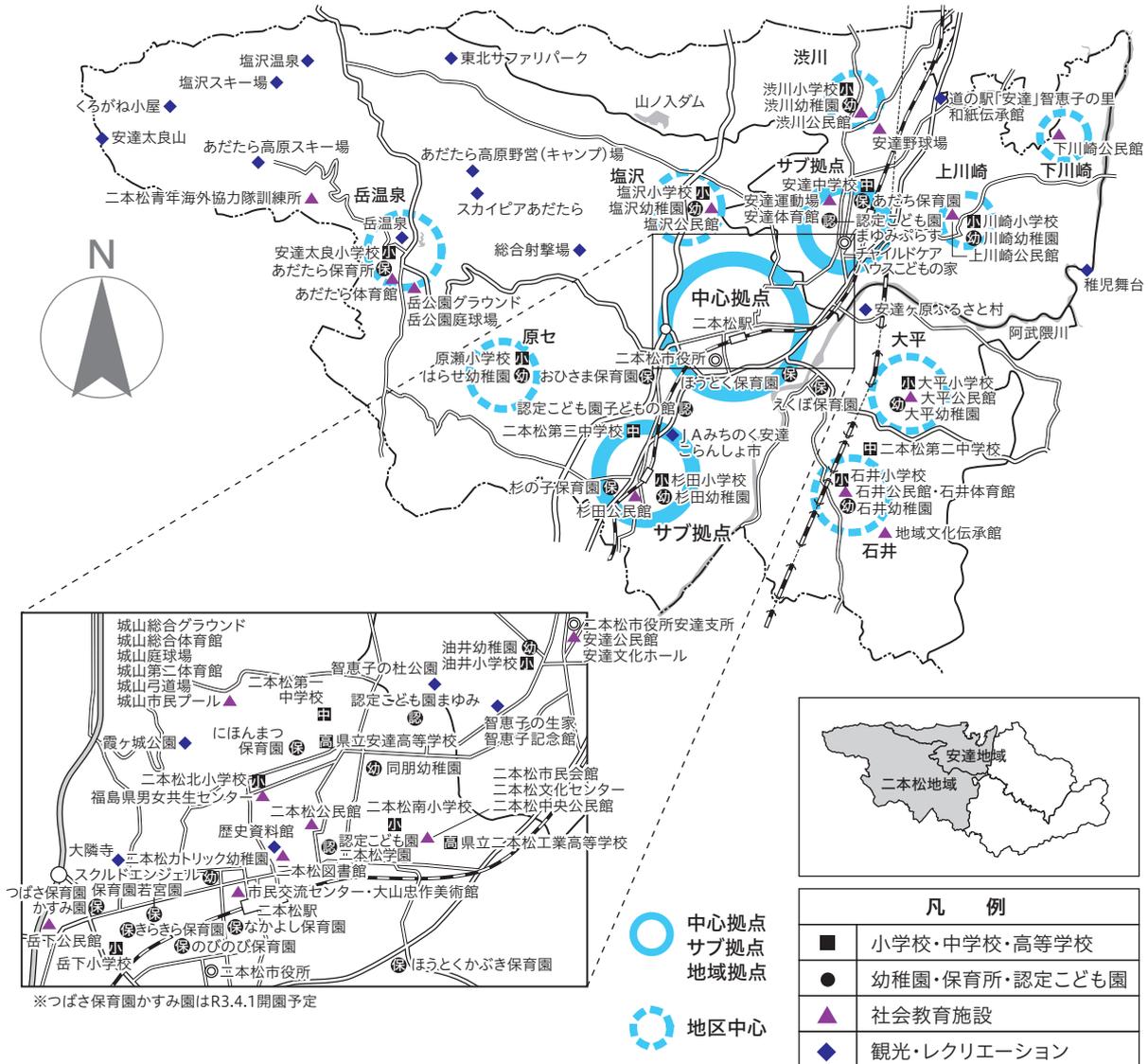
また、連携中枢都市圏である「こおりやま広域連携中枢都市圏」や「福島圏域連携中枢都市圏」などに参画し、各市町村の特性を組み合わせた相乗効果による圏域全体の活性化を図ります。

#### 目指す姿

- ▶地域医療などの生活関連機能サービスが維持されるとともに、観光などの活性化により圏域全体がにぎわっています

### 3 地域のまちづくりの方向性

#### (1) 二本松・安達地域



二本松地域は、国の史跡に指定された二本松城跡（霞ヶ城公園）をはじめ、城下町としての風情を今に残す中心市街地に事業所、商店街、住宅が立ち並び、また行政、教育、医療機関など市の基幹となる施設が多数立地しています。

二本松駅前整備事業が完了し、にぎわいのある中心市街地の再生を目指して周辺商店街と一体となった整備を進めていますが、近年の人口減少や大型店の郊外立地に加え、消費者ニーズの多様化やインターネット販売の台頭などにより、既存商店に大きな影響を与えています。

中心市街地はまさに「二本松の顔」であり、今後のまちの発展の方向性を位置付ける中心拠点であるとともに、市内外の人たちの交流地点としての役割も果たしています。二本松駅周辺においては市民交流センターを核に、身近な商業、サービス機能の集積を促進し、にぎわいのある市街地の形成と経済活動の活発化に努めるとともに、人口減少・少子高齢化に対応し、誰もが安心して暮らせるようコンパクトに都市機能を集積することで、中心市街地への居住を推進します。

また、本市の歴史・文化の象徴である霞ヶ城公園周辺については、観光拠点施設の整備や魅力ある景観形成に努め、観光都市としての魅力向上を図ります。杉田駅周辺については、地域の生活ニーズに対応した施設の集積・誘導を進めるとともに、良好な住環境の整備を図ります。

安達地域は、二本松地域の市街地から連なる旧奥州街道周辺や智恵子の森団地、安達駅周辺において宅地化が進むとともに、近年は大規模な商業施設の立地が相次いでいます。

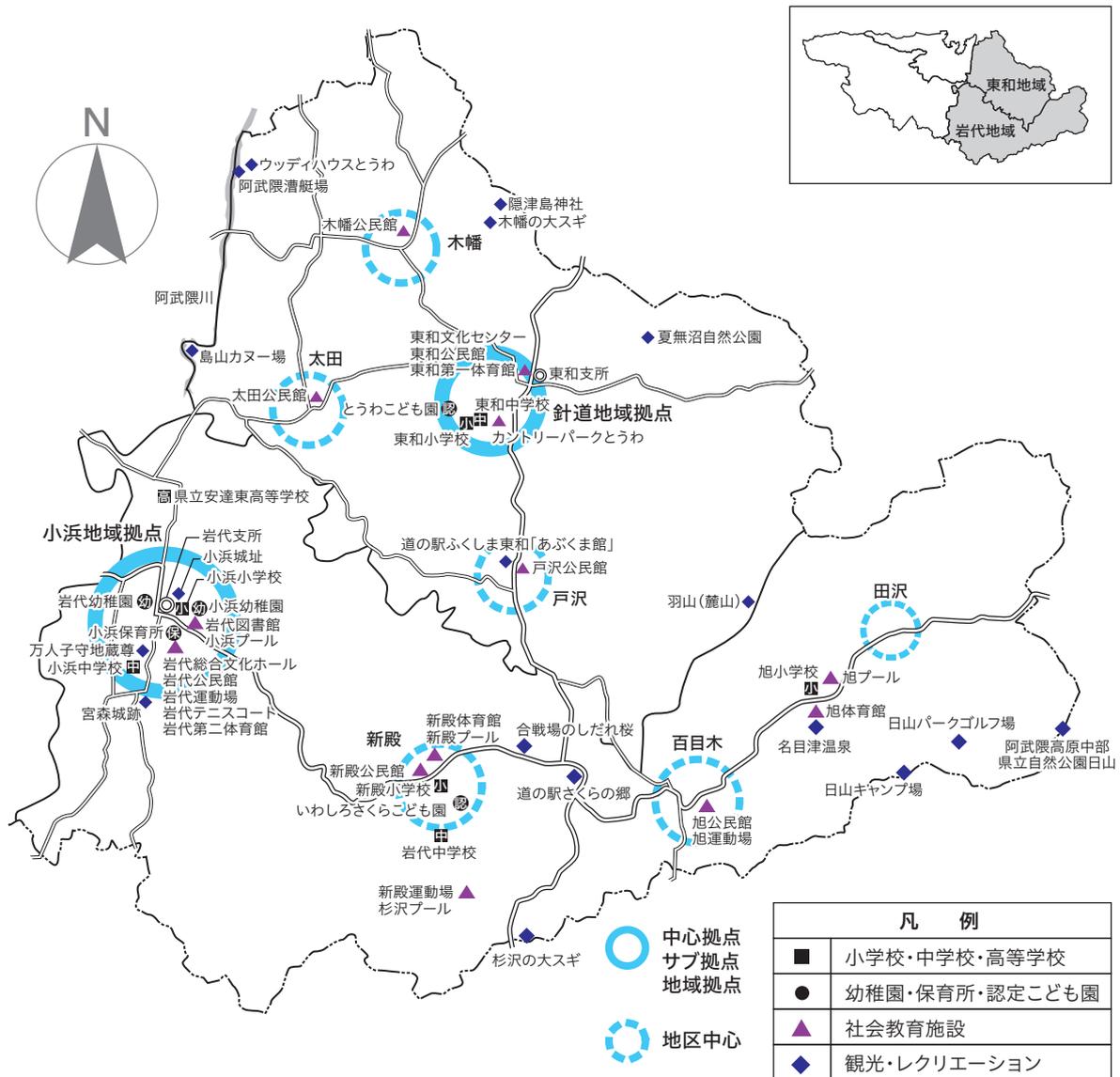
こうした動向を踏まえ、安達駅周辺では道路整備等のインフラ整備を進めるとともに、民間による開発や宅地造成の誘導など、良好な住環境整備に取り組んでいます。安達支所を中心とした行政機能のほか、安達駅周辺には医療機関をはじめ学校や保育機能が近距離に立地していることから、まちの機能がコンパクトに集約された利便性の高い市街地の整備を図ります。

また、二本松地域に連なる智恵子の杜公園等の丘陵地は、緑化を充実させるとともに文化・レクリエーションの場としての活用を図ります。

安達太良山のふもとは農地が広がり、山麓では酪農や畜産が営まれるなど、地域の特性を生かした農業振興が行われています。一部が国立公園の指定を受けた安達太良山系とその山裾に広がる高地は、四季折々の美しい自然を有し、岳温泉があるなど、観光・レクリエーションの拠点となっています。

豊かな自然環境と景観資源の保全に努めるとともに、これらを活用した観光客の誘致に向け、周辺自治体と連携した安達太良山や阿武隈川流域の広域観光ルートづくりや、観光と農業者を結びつけた6次産業化を推進します。

## (2) 岩代・東和地域



岩代地域・東和地域は、阿武隈高地特有の起伏に富んだ山間丘陵地にあるため、山間地の中腹高台に耕地・住家が点在しています。このため、小規模な農地が多く、過疎化の進行に伴い山林・農地の荒廃が目立ち、耕作放棄地も増加傾向にあります。

地域生活の拠点は、岩代地域では小浜地区に、東和地域では針道地区に、それぞれ集積していますが、岩代地域・東和地域ともに人口減少と少子高齢化が進み、空き店舗や空き家が増加するなどにぎわいが薄れつつあり、買い物先として二本松地域や市外が選ばれることも多くなっています。基本的な生活機能の維持に向け、地域の実情に合った小さな拠点づくりを進めます。

道の駅「さくらの郷」および「ふくしま東和」は、農産物直売所として地域振興の中核的な役割を担っており、地域イベントや農作業等体験、グリーンツーリズムなどを通じて都市部との交流を行うとともに、二地域居住や移住促進のために雇用創出や新規就農の受け入れなど、独自事業も展開しています。引き続き、道の駅が地域振興の拠点としての役割を果たすことができるよう活動支援に努めます。

また、阿武隈高原中部県立自然公園の北に位置する日山や名勝木幡山などは、市内でも随一の自然環境を有し、杉沢の大杉や木幡の大杉、合戦場のしだれ桜などの名木や、小浜城跡、隠津島神社三重塔などの歴史・文化遺産とあいまって地域の風土を形づくっています。

これらの貴重な自然・歴史環境とあわせて、日山キャンプ場や夏無沼キャンプ場、日山パークゴルフ場、カヌーのメッカ阿武隈漕艇場、バイオマスエネルギーを活用した名目津温泉など魅力的な観光・レクリエーション資源が多数存在していることから、さまざまな観光資源を有効に生かしながら相互の連携性を高め、ネットワーク化し、新しい観光ルートを作成して市内外へ幅広くPRする事によって、交流人口の拡大に努めます。

## 新型コロナウイルス感染症のもとでの危機管理克服と 新しい未来に向けて ～「新たな日常」の実現～

令和元年度に発生した新型コロナウイルス感染症の世界規模での拡大は、人々の生活のみならず、経済、社会、さらには人々の行動・意識・価値観まで、多方面に大きな影響と変化をもたらしており、デジタル化の動きがさらにこの変化を加速させています。

本市においても新型コロナウイルス感染症による市民生活等への影響は大きく、市民意識・行動にさまざまな変化が生まれています。これらの影響を踏まえた二本松市の新しい未来に向けて、感染症拡大の局面で現れた新たな動きを、後戻りさせることなく社会変革の契機と捉え、通常であれば10年かかる変革を、将来を先取りする形で一気に進め、「新たな日常」を実現することが重要となっています。

そのため、「新たな日常」構築の原動力となる社会全体のデジタル化を推進し、豊かで暮らしやすい魅力的なまちづくりを進めるとともに、「新たな日常」を支える基盤として、「人」・イノベーションへの投資や誰一人取り残すことのない社会づくりを進め、新たな秩序の下で活力に富んだ地域経済を構築していくことが求められています。

### ポストコロナ時代を見据えた「新たな日常」の早期の実現に向けた主な取り組み

#### 1 「新たな日常」構築の原動力となるデジタル化への投資とその環境整備

- ▶ 行政手続のオンライン化やワンストップ・ワンスオンリー※13化
- ▶ 民間企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）※14の促進
- ▶ 少子化対策や女性活躍の拡大と連携した、テレワークの促進やワーク・ライフ・バランスの実現など新しい働き方・暮らしの改革の推進 など

#### 2 「新たな日常」が実現される地方創生

- ▶ 観光・農林水産業・中小企業など、地域の躍動につながる産業・社会の活性化 など

#### 3 「人」・イノベーションへの投資の強化

- ▶ 教育の充実による、課題設定・解決力や創造力を発揮できる人材育成の推進
- ▶ 科学技術・イノベーションの加速による、生産性向上を通じた経済成長の実現 など

#### 4 「新たな日常」を支える誰一人取り残すことのない社会の実現

- ▶ 国や県と連携した「新たな日常」を支える社会保障の構築
- ▶ 困難に直面している女性や若者などへの支援を通じた所得向上策の推進と格差拡大の防止 など

#### 5 新たな秩序の下での活力ある地域経済の実現

- ▶ 感染症拡大の防止や環境問題への取り組みなど地球規模の課題解決への貢献
- ▶ リスクに対応できる強靱な地域経済・社会構造の構築
- ▶ 経済安全保障の視点からみる、サプライチェーン※15の多元化に向けた支援 など

※13 一度提出した情報は再提出不要とする原則。

※14 Digital Transformation の略。企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

※15 商品や製品が消費者の手元に届くまでの、原材料・部品の調達から、製造、在庫管理、配送、販売、消費までの一連の流れのこと。供給連鎖ともいう。